

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ツクイ姥ヶ山グループホームふれあいの家
(ユニット名)	和みの間
所在地 (県・市町村名)	新潟県新潟市中央区姥ヶ山6-2-32
記入者名 (管理者)	鈴木真実(管理者兼計画作成担当者)
記入日	平成 21 年 4 月 19 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念はある。		理念はあるが具体性をもう少し持ちたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	5つの大切にしたいことを理念として掲げ、共有し実践しております。		新しい職員も増え、理解度が異なっているところもあるため、今後同じ理解の中で取り組めるように教育が必要と考えます。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	今まで詳しく理念の内容が決まっていなかった。		決まった具体的な理念を広報誌等を通し地域に広めていきたいと考えております。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方との挨拶はもちろん、隣の小学生との交流は多く、気軽に遊びに来てくださったりとても日常的な付き合いが出来ていると思います。		もっと多くの方にGHを知って頂ける様、受身ではなくこちらからも様々な事を発信していきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の運動会や防災訓練等に参加し地域の一員として参加できています。		来てもらうのも良いが、もっと外にも出て行くようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	特にそういった話し合いの場を設けたことがない。		職員のスキルアップにも繋がる為、積極的に地域貢献ができる様、自治会との連携を更に深め実践していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	全体ミーティング時に全職員に周知。実施の意義を説明し改善に取り組んでいます。		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	定期的に運営推進会議を実施し、そこでの意見を職員等にも周知し、サービス向上につなげています。		運営推進会議以外にも関わりを持っていき、良好な関係を作っていきたい。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	特にそういった機会が今まで無かった。		行き来する機会もあまり無い為、今後積極的にこちらから機会を作り、そういった機会増やして行きたい。
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	今現在成年後見人がいる入居者も数名いるため、こういった制度なのか学ぶ機会があります。		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	高齢者虐待防止関連法について資料等を用いて学んでいます。虐待に関しては、中々実態の把握が難しい為、日頃から職員とのコミュニケーションや入居者の心身状態を把握できるように努めております。		今後も学ぶ機会をつくり、虐待の防止により努めて行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問や不安が少しでも解消できるよう契約や解約時は十分な説明ができる様に努めています。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情は管理者が窓口となり受け付けている。		外部に現せる機会に関してまだまだ改善が必要と思われる。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や立替金の精算時等になるべく近状を報告しています。そのほかにも必要に応じて案内の送付を行っていますし、定期的に新聞を発行し暮らしぶりなどをお伝えしています。		広報誌を送付して普段の生活状況を知らせている。面会時に状況をお話している。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情は管理者が窓口となり受け付けている。		外部に現せる機会に関してまだまだ改善が必要と思われる。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等を活用しなるべく職員からの現場の声を聴く仕組みがあり、給与等の改定に繋がっています。(夜勤手当・通勤手当の創設)		個別面談も実施しており意見や要望を共有できるように努めている。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	基本的には今現在管理者・計画作成は現場に入らずとも運営できるようなシフトになっている。業務のかなでもその日に応じて休憩時間を変更したりと柔軟に対応できるよう努めている。行事のときなどは職員を多く配置できるようにしている。		更に個別のサービスに対応していきたい。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者が続き大幅な人員の採用等が実際あったが、入居者様に不安感を与えない様、研修やシフト作成時に配慮をした。結果入居者様へ大きな不安や混乱等は見られなかった。		現在は離職率も下がり、安定した中で事業所運営ができています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>本社主催の定期研修があり、それに参加している。参加者は持ち帰り、現場での研修を行っている。勤務しながらのトレーニングを進めています。</p>		<p>研修したことが、研修だけで終わらないよう、実際の業務に活かして行きたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>特にそういった機会が今まで無かった。</p>		<p>他社や他法人との交流等は特に無く、今後こういった機会を作っていけるよう働きかけたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>会社でメンタルヘルスカウンセラーの無料相談を実施したり、福利厚生の中でも様々な部分で取り組んでいます。</p>		<p>日頃のコミュニケーションや個人面談を通して課題や問題の把握解消に努めたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>昇給や賞与時期に評価を行い、努力や実績について把握する仕組みがある。実績や勤務状態に合わせた昇給や賞与となっています。</p>		<p>外部研修等の情報提供を行っている。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>契約時や説明時にアセスメントを行いご本人からも聞き取る仕組みがあります。</p>		<p>モニタリングをもう少し詳しく行なう必要がある。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>契約時や説明時にアセスメントを行い御家族からも要望を聞き取る仕組みがあります。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の思いや状況何が必要なかを見極めるように努めている。		必要に応じてケアマネージャーなど外部とも連携をとる。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来ていただき雰囲気を知っていただいたり、入居時になるべく本人のなじみのものを持ってきていただいたりとなるべく今までの生活に近い環境を作るよう努力しています。必要に応じて御家族の宿泊等もできるので、慣れるまで一緒に過ごしていただいたりもできる様にしています。		可能であれば利用前の実際の生活も見せていただくのも、場合によっては良いかと思う。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	いろいろな場面で入居者様の思いや考えを共有しています。入居者様から学ぶ事も実際多く、入居者様・職員がお互いのできることでできないことを理解しお互いにフォローしながら生活を営んでいます。		コミュニケーション技術の向上。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	時には同じ立場に立って物事を一緒に考えたり、支えていける関係作りに努めています。		いつでも意見や苦情・相談をできるような関係。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人又は家族、それぞれに対する互いの思いを受け止めそれがつながる様な働きかけをしていく。		各家族にそれぞれの事情がある事を職員も理解し時には家族の立場に立ち、考え、入居者様に説明する事も必要である為そういった対応が全職員ができる様になる必要がある。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に執着心を持つ方もいらっしゃる、帰宅要求も強い。ご家族との話し合いで週に1回自宅へ帰宅できる様に支援している。他にも昔から続けている事等ご本人が大切にしていることに関しては事故等の無いように職員と共に行動しています。(散歩等)		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	なるべく共有のスペースで過ごす時間を持てるように超えがけをするようにしている。中にはあまり他社との関わりを持ちたがらない入居者も居るが、職員が話し相手になる等孤立を避ける様に全体で意識をしています。		利用者同士の協調。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要な場合は対応していくが、現在は何もしていない。		退所した方においても、必要であれば対応していく。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご本人からの要望や、そう生活してゆきたいかを聞き取り、GHに入居されても希望に沿った生活が行える様支援しております。		本人だけでなく家族や周囲の関係者などからも情報を収集したりしてサービスに繋げていく。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにてご本人の今までの暮らしぶりや生活環境を知る仕組みがある。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	普段の係りの中で常に観察を怠らないよう普段から職員への周知徹底を行っている。少しの変化でも心身状態が把握できるよう努めております。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンス等を定期的開催し、課題の把握や対応方法について検討している。必要に応じてご家族からの意見等もお聞きし、介護計画に反映させています。また普段の面会時等に昔の暮らしぶり等からアイデアを一緒に考えて実行したりもしています。		カンファの際に家族が参加できるように日程を調整していきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に即した見直しを行っています。		常に実情に即したサービスが提供できるように期間にこだわらずに見直しができるようにする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有について個々の記録だけではなく、申し送りノート等を活用しています。介護計画の見直しの際にも活用しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	出来るだけその時々々の要望等にお答えできる様努力しております。		柔軟な対応を行なえるように取り組んでいきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じてボランティアの受け入れを行っています。また、隣にある同法人のデイサービスで行われるボランティアの発表等にも積極的に参加しています。		小学生や中学生のボランティアも来ていただけており、様々な地域資源を活用させていただいております。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、特に行っていない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただいているが、協働というところまでは至っていない。		必要に応じて協働していきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医との連携を図り、適切な医療を受けられるよう支援している。必要に応じ往診もしていただける。		本人及び家族が希望する場合は、協力医以外のかかりつけ医の受診支援をしている。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に関する治療が必要と思われた場合は、職員の自己判断はせず認知症の専門医に相談したり受診につなげている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接する同法人のサービスの看護職員から助言や協力をもらうことはあるが、日常の健康管理や協働とはいかない。		医療連携体制をとりたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	お見舞いに伺ったり、病院関係者との情報交換・相談に努め、早期退院できるようにしている。		入院機関のある病院との連携は出来ておらず、入院が長期化し退居されたケースが多くある。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、話し合い、入居者様にとって何が良いのかを共に考えている。		ターミナルケアの必要性またリスクを配慮した上で今後終末期ケアも取り組んでいきたい。まずは医療連携体制加算の取得を目指す。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族との話し合いはある程度されているが、細かい点での整備はされていない。		家族や主治医など、周囲と協働しながら進めていかなければと考えている。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えとなってしまった場合、関係者に対し出来る限りの情報交換、情報提供を行い、ダメージを最小限に抑えられるよう支援している。本人及び家族に対しても最善を尽くした対応を心掛けている。		本人及び家族が住み替えを望まない限り、できるだけ当事業所で生活を送っていただけるように今後も取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>常にサービスを提供させていただくという立場であることを教育している。職員には研修や日々の業務を通して周知徹底に努めている。個人情報保護マニュアルを整備している。また、社内規定にも明記されている。</p>	<p>定期的な働きかけが必要。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>出来ることは積極的に行ってもらい、できないことについてはさりげなく援助できるよう努める。</p>	<p>家事、掃除など日常生活を中心に日々活動し、その月の行事にかかわりのあるレクリエーションを行っている。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個人のペースを大切に、できる限りのことは自分で行ってもらう。最善のサービスが出来るよう考慮し援助する。</p>	<p>その人らしい暮らしを維持できるよう、その場の状況のみや職員の都合に捕らわれることなく最善の支援が行えるようにする。サービスが過度にならないよう、日々職員と話し合っている。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人より理美容の要望があれば、近所の美容室へ行きカットやパーマなどを行っている。また、体調不良等で外出が出来ない場合には、訪問美容のサービスを利用されるかたもいる。</p>	<p>今後も引き続き本人の要望に応じられるような環境を維持したい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の負担にならない範囲で調理、盛り付け、洗い物など行っていただいている。献立も利用者の嗜好を取り入れながら作成している。</p>	<p>一人ひとりの細かいところまでの対応ができればよりよいと考える反面好き嫌いが多い方が多く何処まで対応すべきか今後の課題と考えています。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>常に好みのものを取り入れるようにしている。希望にて、おやつを自己管理して頂いている方もいらっしゃいます。自己管理の出来ない方は、ご本人のおやつ及び副食を預かり、随時お出ししている。特に禁煙・禁酒の取り決めは行っていない。(喫煙に関しては喫煙場所の制限は設けている)</p>	<p>共同生活において、及び体調により、限界はあると思うが、出来るだけ希望に沿った生活を営んで頂けるよう今後職員・ご家族・担当医等と相談をしていく事も大切だと思います。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自然な排泄を基本としている。主治医とも連携し、場合によっては薬でのコントロールもある。羞恥心を配慮した介助の必要性を職員にも周知している。		排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握することで気持ちよく自然に排泄ができるように日々取り組んでいる。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴を提供している。入りたくない日には足浴を行い、体調に合わせて清拭を行うなど、利用者の状態に合わせて、対応している。		今後も利用者個々の状況にあった対応をしていきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝、就寝時間、起床時間については、個人の状況にあわせて、その都度対応している。		個々に対応している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食堂や廊下、居室の清掃、調理の手伝い、畑やプランターの手入れ、天気の良い日の散歩、犬の世話等々好みを聞きながらできることをしていただいている。		今後も多くのものを提供できるよう支援していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了承の下で、小額ではあるが本人が所持し、管理できる方にはしていただいている。		問題となる事は見られていない。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に出掛けている。個人の対応もできる範囲で行っている。ドライブにも出かけている。地域に出かけたりする機会は比較的多い。		定期的に外食やドライブなど外出を実施している。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	出来るだけ要望に答えるようにはしているが、個別でとなると「あの人ばかり…」とよく思わない入居者様もいる為、なるべく少人数・若しくは全入居者で外出するようにしている。		個別性を持たせるために今後改善が必要だと考える。行きたいところに直ぐに外出が出来る様にご家族の協力も含め考えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある方にはご自由に電話を使っています。ご自分で掛けられない方に関しては職員が介助にて掛けて頂いております。		今までどおり対応いたします。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつ来て頂いても居心地よく過ごしていただけるため、GH内の整理整頓や、環境整備に努めています。また、挨拶等も元々気良く気持ちよく交わせる様職員に指導しております。面会時間等も特に設けず(常識の範囲内の時間)居室やホールでお茶をお出しゆっくり過ごしていただいております。		今後も続けていきます。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	該当事例はない。マニュアルがあり、いつでも確認できる場所にある。		今後も研修や勉強会など知識を深めたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	理解のうえで鍵に関してはこちらから掛けることはしていません。(夜間の玄関は防犯上施錠しています。)夜間ご本人の希望があればご自分で内側から施錠していただいております。		今後も続けていきます。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	配慮し安全に過せるよう見守りを行っております。		今後も続けていきます。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご本人の状態・状況に合わせた部屋のレイアウトを行っております。共有スペースに関しても歩行が不安定な方が良く通る通路等には危険なものを置かない等配慮をしています。		今後も続けていきます。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修等を定期的に行い、知識を習得していただいております。また、一人ひとりの状態に合わせた、事故防止策をミーティングやカンファレンス時に適宜相談し実施しております。		今後も続けていきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	研修等を定期的実施し、知識の習得を行っています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	研修等を定期的実施し、知識の習得を行っています。また、避難経路の確認や、地域の防災訓練に参加し、GHの存在を知っていただき、地域の方々より協力を得られるよう普段から積極的に働きかけを行っています。		もっと深く関係を築きより協力が得やすくなるよう更に努めて行きたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族と話す機会には、現状やこれから起こりうるリスクなどを話すようにして、理解を得るようにしている。		家族との関係作りを、もっと積極的に行って行きたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、朝及び入浴前に、バイタルチェックを実施している。変化があれば細かなことでも情報は共有するよう努めている。		一ヶ月のバイタル表を作成し、その方のリズムの把握等をだれがみてもわかるように作成しております。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期処方、及び頓用処方箋を見やすいようファイリングして誰でもすぐに確認できるようにしている。職員には、高齢者が服用する事の多い薬については最低限知識として知っていただくよう指導している。		誤薬や服用忘れが実際あり、服薬の重要性に関しては、今後も十分な指導を行って行きたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	研修会等で知識をつけて頂くとともに、予防法についても色々な情報を得てきてもらい実施している。		運動不足が懸念されているので、散歩や日光浴以外にも外出する機会を設け体を意識的に動かしたり、薬に頼らなくても自然排便出来る様に改善が必要と思う。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの声かけ、見守りを行いまたは介助する。舌苔の観察も行っている。必要であれば歯科受診も行う。		定期的な歯科検診を実施していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考えた献立作りを行っている。水分量の確保も定時に水分を補給するだけでなく、他の時間にも摂取出来るよう常に声がけをし補水して頂いています。		更に改善を図りたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルが整備されている。予防、対応などきちんと実施できている。		インフルエンザ予防接種、職員・利用者全員接種済み。職員の出勤時及び、散歩等の外出後には、イソジンうがい薬でのうがいと、手洗いを徹底している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	基本的に加熱をしている。調理器具は塩素やアルコールで消毒している。作り置きはしない。生ものはストックしない。		今後も消毒を継続し、衛生面での清潔を保つように努力したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にベンチを置いたり、花壇を作ったりと入りやすい雰囲気を作るよう工夫をしています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地域の風景や行事の写真、手作りカレンダーを飾っている。できるだけ自然の光を取り入れるようにしており、植物を飾っている。畳のスペースを設けており、気軽にくつろげるようにしている。		更に自由に過ごしてもらえる空間の提供。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員が気を配り、仲を取り持ったりして、利用者が安心してくつろげる空間を提供する。各居室で過される時間も大切にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫 をしている	本人のなじみのものを持ってきていただいたりとなるべく今までの生活に近い環境を作るよう努力しています。仏壇を置いたり、写真を飾ったりとご本人が安心できるスペースになっています。		今後も個人が安心してくつろげる空間作りを一緒にしていく。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の様子がないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	状況に応じてきちんと対応しております。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	個々に応じて声かけ、見守りや介助を行っている。		自立にて行えるときには見守りを行い、体調により、必要時 ベル対応を行うなど、日内変動に対応している。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	居室は利用者と話し合いのもと、名前を表示している。トイレ や浴室など分かりやすく表示している。		コミュニケーションにより、信頼関係を保つように努力してい る。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	玄関先に少し休憩できる様にベンチを設けたりと工夫してお ります。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

この冬からGHで柴犬を飼い始め色々な場面で効果が現れています。動物と触れ合う機会を持つことで行動障害が少なくなってきたりとご家族も喜んでらっしゃいました。また、職員の離職率が下がった事で、職員一人ひとりの協力や入居者様への個別対応も上手くいきとても良好な関係が築けてきているように感じます。「入居者様主体のGH作り」を職員各自に考えてもらい、それに対して自分が何をすべきかを計画していただき現在実行中です。